

財務省主催 国際シンポジウム

流動化する 国際経済・通貨秩序と 世界経済の未来

本シンポジウムでは、世界の各地域から、政府高官、アカデミアやシンクタンク等の有識者に参加いただき、「流動化する国際経済・通貨秩序と世界経済の未来」を主題に、貿易政策の転換、通貨体制の変容、そして財政政策の役割・課題という三つの視座から世界経済の今後について議論します。米国の貿易政策の転換、地政学的緊張や技術革新が基軸通貨ドルに与える影響、財政の持続可能性といった今日の課題を多面的に議論することで、揺れ動く国際経済の行方や、今後日本に求められる役割・期待について展望します。

参加費
無料

※事前申込要、
対面参加のみ

日時

2026年3月9日月
13:00~17:55

言語：英語（日英同時通訳あり）

場所

ホテルニューオータニ
ガーデンタワー 宴会場階
鳳凰の間（東京都千代田区紀尾井町4-1）

Time Table

13:00-13:10	開会挨拶 三村淳(財務官)
13:10-13:30	基調講演：「変容する世界経済の下でのIMFの役割と日本への期待」 講演者：クリスタリーナ・ゲオルギエバ(IMF専務理事)
13:30-14:45	セッション1：「貿易政策シフトの影響とグローバル経済の今後」 司会者：サンジョイ・ジョッシ(インド・オブザーバー研究財団理事長)
15:00-16:15	セッション2：「地政学と技術革新がもたらす国際通貨体制の変容」 司会者：ポール・サムスン(カナダ国際ガバナンス・イノベーション研究所所長)
16:30-17:45	セッション3：「不確実性の時代における財政政策の役割と課題」 司会者：ロヒントン・メドーラ(カナダ国際ガバナンス・イノベーション研究所前所長)
17:45-17:55	閉会挨拶 ポール・サムスン(カナダ国際ガバナンス・イノベーション研究所所長)

お問い合わせ

国際シンポジウム 2026 参加登録事務局
(株式会社コンベンションリンケージ内)
〒102-0075 東京都千代田区三番町 2
TEL：03-3263-8698（平日 10:00-17:00）
E-mail：mof26reg@secretariat.ne.jp

申込開始 ▶▶ 2026年2月1日(日)

詳細はWEBサイトよりご確認ください。

<https://www.international-symposium2026.net/>

財務省 国際シンポジウム 2026 🔍



基調講演 「変容する世界経済の下でのIMFの役割と日本への期待」



講演者

クリスタリーナ・ゲオルギエバ
(IMF専務理事)

セッション1 「貿易政策シフトの影響とグローバル経済の今後」

昨年の米国の貿易政策の転換や、これに対する世界各国の対応を踏まえ、関税政策の持続可能性や、これが米国経済・世界経済に与える長期的影響について展望する。その際、グローバルな経常収支の過度な不均衡はいかにして是正可能か、世界経済は今後分断と脱グローバル化の道を進むこととなるのか、そして、今後目指すべき新たな世界経済・貿易の秩序はいかにあるべきか、といった問いと向き合いながら議論する。

司会者

サンジョイ・ジョッシ
(インド・オブザーバー研究財団理事長)ヘン・スイキヤット
(元シンガポール副首相、
元同国財務大臣)アダム・ポーゼン
(米ピーターソン
国際経済研究所所長)

パネリスト

ブロンウェン・マドックス
(英チャタムハウス所長)中尾 武彦
(元アジア開発銀行総裁、
元日本財務官)

セッション2 「地政学と技術革新がもたらす国際通貨体制の変容」

ドルは依然として国際通貨体制の中心にあるものの、地政学リスクの高まりや米国による金融制裁、そしてCBDCやステーブルコイン等の技術革新等により、グローバルな通貨秩序は転換点を迎えている可能性がある。地政学リスクやデジタル通貨が国際金融・決済システムにもたらす影響、ドルを中心とする国際通貨体制が変容していく際に生じ得る経済・金融面のリスク等について多角的に議論し、揺れる国際通貨体制の行方を探る。

司会者

ポール・サムスン
(カナダ国際ガバナンス・
イノベーション研究所所長)タリサ・ワタナゲス
(元タイ中央銀行総裁)ドゥヴリ・スバラオ
(元インド準備銀行総裁)

パネリスト

ケビン・ウォン
(Swiftアジア太平洋地域
代表取締役)カーラ・ノーロフ
(加トロント大学教授)

セッション3 「不確実性の時代における財政政策の役割と課題」

今日、多くの民主主義国では、政府が防衛費、産業補助金、社会保障コストの増加圧力に直面し、財政政策の役割が増大する傾向にある。他方、財政赤字と政府債務の拡大が続ければ、金利上昇や通貨不安による金融市場の混乱リスクも高まる。日本国内でも、世代内・世代間格差の拡大や財政需要の増大がみられる中で、それに対応するための財源の確保や市場の信認維持が課題となっている。このようなトレード・オフを踏まえ、財政政策が果たすべき役割と解決すべき課題について議論する。

司会者

ロヒントン・メドーラ
(カナダ国際ガバナンス・
イノベーション研究所前所長)スリ・ムルヤニ
(元インドネシア財務大臣)アントワネット・
モンショー・セイエ
(元IMF副専務理事、
元リベリア財務大臣)

パネリスト

ジェロミン・
ツェッテルマイヤー
(ベルギー・ブリュッセル所長)マイケル・キーン
(東京大学東京カレッジ潮田フェロー、
元IMF財政局長)